

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



※ P5460 参照



※ P5463 参照



※ P5464 参照

2020.11
No. 753

目次

[大学の動き]

- 名誉教授の称号を授与 5452
- 京都大学春秋講義(令和2年度秋季講義)のオンライン講義を公開 5452
- 「財務報告書 Financial Report 2020」を発行 5453
- 大学院秋季学位授与式を挙行 5454
- 大学院秋季入学式を挙行 5460
- 「ムーンショット型研究開発事業」の研究開発プロジェクトに採択 5461

[部局の動き]

- 「本庶 佑 先生 ノーベル生理学・医学賞受賞記念モニュメント」を設置 5463
- 総合生存学館ソーシャルイノベーションセンターが発足 5464

[寸言]

- 正しいとは限らない 半井 大 5466

[随想]

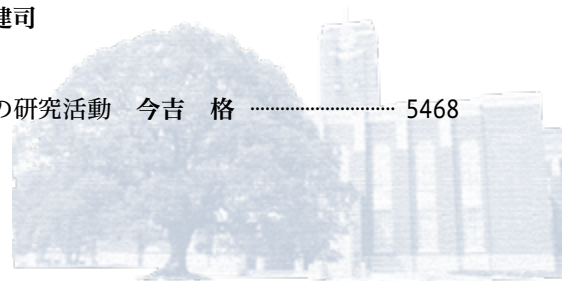
- 鈍牛生活 是愉しからずや 5467
- 名誉教授 加納 健司

[洛書]

- 仮想現実空間での研究活動 今吉 格 5468



京都大学



大学の
動き

名誉教授の称号を授与

10月1日付けで次の1名に京都大学名誉教授の称号が授与されました。

氏 名	推 薦 部 局
川 添 信 介	文学研究科

(総務部(人事課))

[目次に戻る ↗](#)

京都大学春秋講義(令和2年度秋季講義)のオンライン講義を公開

京都大学春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資源について、広く学内外の人々と共有を図るため、1988(昭和63)年秋から開講している公開講座です。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月1日(木)よりオンラインにて配信しました。メインテーマを「こころのカタチ」として、船曳康子 人間・環境学研究科教授が「発達障害の実体は何だろう」、楠見 孝 教育学研究科教授が「なつかしさの心理学-こころの時間旅行-」と題した講義を行いました。全国各地から1,000名を超える申し込みがあり、目には見えない「こころ」の問題への関心の高さがうかがえました。

参加者からは、「これまで不明瞭だった発達障害についての情報や知識が明確に説明されていた」、「ハンディキャップの人たちの手助けのためのボランティア活動をやっており、大変参考になった」、「関心のあるテーマだったので、わかりやすく勉強になった」など多数の感想が寄せられました。

【関連リンク】

本配信は、12月25日(金) 午後5時00分まで(お申し込みは、12月23日(水) 12時00分まで) インターネットにて公開しており、配信期間中は何度でも視聴可能です。

https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/events_news/office/soumu/shogai/event/2020/201001_1410.html

(総務部(渉外課))

[目次に戻る ↗](#)



講義をする船曳教授



講義をする楠見教授

大学の
動き

「財務報告書 Financial Report 2020」を発行

2020年9月、財務・非財務情報を統合的に報告する「財務報告書 Financial Report 2020」を発行・公開しました。

本学では2017年度より、国際統合報告評議会(IIRC)^{*}が提唱する国際統合報告フレームワークを参考にし、決算情報のみならず、本学のガバナンス体制の紹介やガバナンスの強化・充実に向けた取り組み、持続的な価値創造に向けた取り組みを統合的に紹介するなど、財務報告書 Financial Reportの進化に努めています。

今回で16回目の発行となる財務報告書 Financial Report 2020の編集にあたっては、①本学を取り巻く環境や運営方針を整理して幅広い読者の皆さまに発信すること、②支援者の皆さまに本学の特色ある活動を深く理解していただくこと、③支援者の皆さまに中長期にわたる持続的な価値の向上を目指す本学の可能性を理解していただくこと、の3点を特に重視し、詳細情報へのリンクを付すなどにより本学の活動を分かりやすく発信することを心がけています。

また、従来の財務報告書 Financial Reportの編集に対する読者の皆さまからのフィードバックを取り入れた改善にも取り組んでいます。本学の活動や財務状況の要点を簡潔に記した冊子をご要望する声を反映するとともに、より多くの支援者の皆さまに届けられるよう、ダイジェスト版と英語版を前回に引き続き発行・公開しました。さらに、本学の基本データを取りまとめた「京都大学概要」や本学の環境配慮活動を総括した「環境報告書」との有機的連携を図るため、表紙のデザインに統一性を持たせることとしました。

本学は、財務報告書 Financial Reportを通じて、支援者の皆さまに、本学の業務運営の姿勢や取り組みに対する理解を深めていただくとともに、持続的な価値の向上に向けた対話につなげていき



第27代総長メッセージ



財務報告書（左）と京都大学概要（中央）と環境報告書（右）

大学の
動き

たいと考えています。そのためにも、支援者の目線に立つことを念頭に置きつつ、引き続き内容の充実に努めていきます。

※ 国際統合報告評議会（IIRC）：国際的な企業報告フレームワークの開発を目指して、規制当局・投資家・民間企業・基準設定機関・会計士団体・NGO 等によって設立された民間団体。

（財務部（監理課））

[目次に戻る](#)

大学院秋季学位授与式を挙行

9月23日（水）、百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて、山極壽一 総長、理事をはじめ、各研究科長、学館長、学舎長、教育部長、博士課程教育リーディングプログラムコーディネーター出席のもと、大学院秋季学位授与式を挙行しました。

今回の大学院学位授与式の対象は、令和2年5月25日付け授与の課程博士54名、論文博士9名の計63名、同7月27日付け授与の課程博士32名、論文博士5名の計37名、同9月23日付け授与の修士課程109名、専門職学位課程6名、課程博士107名、論文博士8名の計230名、合計330名です。

また、リーディング大学院プログラムを15名の受講生が修了しました。

山極総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族の方の来場は遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

各分野別内訳は次のとおりです。

修士

学 位 名	2020年9月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	0	4	4	0	3	3	5,295
修士（教育学）	0	0	0	0	0	0	1,596
修士（法学）	0	0	0	0	0	0	1,532
修士（経済学）	2	11	13	2	11	13	1,940
修士（理学）	6	3	9	5	2	7	11,534
修士（医科学）	0	0	0	0	0	0	391
修士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	619
修士（薬科学）	2	1	3	1	1	2	583
修士（工学）	5	0	5	3	0	3	33,953



式辞を述べる山極総長

大学の
動き

学 位 名	2020年9月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
修士（農学）	6	15	21	6	15	21	10,974
修士（人間・環境学）※ ¹	0	0	0	0	0	0	3,630
修士（エネルギー科学）	8	6	14	8	5	13	2,787
修士（地域研究）※ ²	0	3	3	0	0	0	418
修士（情報学）	20	5	25	11	5	16	3,818
修士（生命科学）	1	3	4	1	3	4	1,537
修士（総合学術）※ ²	0	1	1	0	0	0	37
修士（地球環境学）	3	4	7	3	3	6	655
修士（社会健康医学）	－	－	－	－	－	－	66
修士（薬学）	－	－	－	－	－	－	2,299
総 計	53	56	109	40	48	88	83,664

※¹：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名を含む

※²：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学 位 名	2020年9月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	0	1	1	0	1	1	485
公共政策修士（専門職）	2	0	2	0	0	0	529
経営学修士（専門職）	1	1	2	0	0	0	1,002
総 計	3	2	5	0	1	1	2,016

法務博士（専門職）

学 位 名	2020年9月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	0	1	1	0	0	0	2,391
総 計	0	1	1	0	0	0	2,391

博士

■課程博士 令和2年5月25日付け、7月27日付け、9月23日付け

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年5月			2020年7月			2020年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	1	1	2	1	0	1	3	1,145
	0	0	0	1	1	2	1	0	1	3	

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年5月			2020年7月			2020年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（教育学）	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	254
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	379
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（経済学）	1	0	1	2	0	2	1	0	1	4	700
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（理学）	7	3	10	2	0	2	1	4	5	17	5,704
	1	1	2	0	0	0	0	3	3	5	
博士（医学）	10	1	11	9	2	11	16	8	24	46	10,406
	0	0	0	1	0	1	1	1	2	3	
博士（医科学）	2	0	2	2	2	4	0	2	2	8	117
	0	0	0	1	2	3	0	1	1	4	
博士（社会健康医学）	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	110
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	77
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,151
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	1	1	0	0	0	4	1	5	6	128
	0	1	1	0	0	0	4	0	4	5	
博士（工学）	11	1	12	6	0	6	17	9	26	44	6,159
	5	0	5	2	0	2	10	9	19	26	
博士（農学）	1	3	4	1	0	1	7	0	7	12	3,071
	0	2	2	1	0	1	7	0	7	10	
博士（人間・環境学）	1	3	4	1	0	1	2	3	5	10	963
	1	2	3	1	0	1	0	1	1	5	
博士（エネルギー科学）	2	0	2	1	0	1	5	1	6	9	412
	1	0	1	1	0	1	3	1	4	6	
博士（地域研究）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	276
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年5月			2020年7月			2020年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（情報学）	1	0	1	0	0	0	10	1	11	12	739
	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7	
博士（総合学術）※ ¹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	1	1	2	0	0	0	2	1	3	5	446
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（総合学術）※ ²	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	15
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	1	0	1	0	1	1	1	2	3	5	203
	1	0	1	0	0	0	0	2	2	3	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	11
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 計	40	14	54	25	7	32	71	36	107	193	32,468
	10	6	16	8	3	11	35	19	54	81	

※1：情報学研究科修了 ※2：総合生存学館修了

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■論文博士

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年5月			2020年7月			2020年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	651
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	175
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	403
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（理学）	1	0	1	0	0	0	1	1	2	3	1,573
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医学）	4	0	4	3	0	3	3	0	3	10	2,209
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年5月			2020年7月			2020年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（医科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	15
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	773
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（工学）	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2	4,188
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（農学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2,891
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（エネルギー科学）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	64
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	25
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 計	7	2	9	5	0	5	6	2	8	22	13,374
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

大学の
動き

■博士課程教育リーディングプログラム（博士課程内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年5月			2020年7月			2020年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	18
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	42
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	0	0	0	0	1	1	0	2	2	3	17
	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	
デザイン学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	4	0	4	4	26
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	1	1	2	0	0	0	0	2	2	4	14
	0	1	1	0	0	0	0	2	2	3	
総計	1	1	2	1	2	3	5	5	10	15	117
	0	1	1	0	1	1	2	3	5	7	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数



学位記を手渡す山極総長



式典の様子

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

大学院秋季入学式を挙行

10月3日(土)、百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて、湊 長博 総長，理事をはじめ，各研究科長，学舎長，教育部長，出席のもと，大学院秋季入学式を挙行しました。

今回の大学院秋季入学式者は，修士課程65名，専門職学位課程6名，博士後期課程105名，合計176名です。なお，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，ご家族の方の来場は遠慮いただき，式典の様子はインターネットで同時配信しました。



祝辞を述べる湊総長



式典の様子

各分野別内訳は次のとおりです。

令和2年10月 修士課程入学者数

区 分	入 学			左記のうち留学生数		
	男	女	計	男	女	計
経済学研究科	3	9	12	3	9	12
理学研究科	3	3	6	3	3	6
工学研究科	1	0	1	1	0	1
農学研究科	8	9	17	7	8	15
エネルギー科学研究科	8	4	12	6	3	9
情報学研究科	9	0	9	7	0	7
生命科学研究科	0	2	2	0	2	2
地球環境学舎	1	5	6	1	5	6
総 計	33	32	65	28	30	58

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

令和2年10月 専門職学位課程入学者数

区 分	入 学			左記のうち留学生数		
	男	女	計	男	女	計
医学研究科	0	2	2	0	0	0
経営管理教育部	4	0	4	0	0	0
総 計	4	2	6	0	0	0

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

大学の
動き

令和2年10月 博士(後期) 課程入学人数

区 分	進 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計
	女		女		女	
経済学研究科 博士後期課程	0 (0)	3 (3)	3 (2)	6 (5)	3 (2)	9 (8)
	3 (3)		3 (3)		6 (6)	
理学研究科 博士後期課程	5 (5)	7 (6)	5 (5)	8 (8)	10 (10)	15 (14)
	2 (1)		3 (3)		5 (4)	
薬学研究科 博士後期課程	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	0 (0)		0 (0)		0 (0)	
工学研究科 博士後期課程	3 (3)	3 (3)	19 (10)	23 (14)	22 (13)	26 (17)
	0 (0)		4 (4)		4 (4)	
農学研究科 博士後期課程	2 (2)	4 (4)	6 (6)	8 (8)	8 (8)	12 (12)
	2 (2)		2 (2)		4 (4)	
エネルギー科学研究科 博士後期課程	2 (2)	4 (4)	5 (4)	5 (4)	7 (6)	9 (8)
	2 (2)		0 (0)		2 (2)	
情報学研究科 博士後期課程	7 (5)	9 (7)	6 (4)	9 (6)	13 (9)	18 (13)
	2 (2)		3 (2)		5 (4)	
生命科学研究科 博士後期課程	0 (0)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	4 (4)
	2 (2)		0 (0)		2 (2)	
地球環境学舎 博士後期課程	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (8)	4 (4)	11 (9)
	1 (1)		6 (4)		7 (5)	
総 計	20 (18)	34 (31)	50 (37)	71 (55)	70 (55)	105 (86)
	14 (13)		21 (18)		35 (31)	

※ () 内は留学生数, 在留資格「留学」のみの数

(教育推進学生支援部(教務企画課))

[目次に戻る ↗](#)

「ムーンショット型研究開発事業」の研究開発プロジェクトに採択

本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) および生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN) による「ムーンショット型研究開発事業」の研究開発プロジェクトに採択されました。

総合科学技術・イノベーション会議(CSTI) は、日本発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発(ムーンショット) を推進するものとして、「ムーンショット型研究開発制度」を創設し、6つのムーンショット目標を決定

大学の
動き

しました。

6つの目標のうち、目標2「2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現」の達成に向けた挑戦的な研究開発が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)により、また、目標5「2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出」の達成に向けた挑戦的な研究開発が、生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)により、それぞれ実施されます。

このたび、本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が採択した5件の研究開発プロジェクトのうちの1件について選定されました。また、生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)が採択した10件の研究開発プロジェクトのうちの2件について、FS(Feasibility Study)的採択として選定されました。

■国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)採択の本学研究開発プロジェクト

- ・臓器連関の包括的理解に基づく認知症関連疾患の克服(プロジェクトマネージャー:高橋良輔 医学研究科教授)

【教育研究活動データベース】

<https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/jO9gC>

■生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)採択の本学研究開発プロジェクト

- ・先端的な物理手法と未利用の生物機能を駆使した害虫被害ゼロ農業の実現(プロジェクトマネージャー:日本典秀 農学研究科教授)

【教育研究活動データベース】

<https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/mQ4tT>

- ・シロアリの破壊的木材分解能力を用いた未利用木材の飼料化と食料化(プロジェクトマネージャー:松浦健二 農学研究科教授)

【教育研究活動データベース】

<https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/pR0zO>

【関連リンク】

- ・ムーンショット研究開発制度

<https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/index.html>

- ・ムーンショット型研究開発事業におけるプロジェクトマネージャーの決定について(国立研究開発法人科学技術振興機構)

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1450/index.html>

- ・ムーンショット型研究開発制度(目標5) プロジェクトマネージャーの採択について(生物系特定産業技術研究支援センター)

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/brain/136657.html

(研究推進部(研究推進課))

[目次に戻る ↗](#)



「本庶 佑 先生 ノーベル生理学・医学賞受賞記念モニュメント」を設置

医学研究科は、このたび、医学研究科附属がん免疫総合研究センター長である本庶 佑 特別教授が、2018年ノーベル生理学・医学賞を受賞したことを末永く称え、本庶特別教授の研究に対する志や研究成果を広く学内外の方々、特に未来の医学研究を志す若い方々へ永続的に引き継いでいくため、医学部構内に記念モニュメントを設置しました。

【モニュメント概要】

●モニュメント設置場所

京都大学医学部構内（医学部構内正門西側）

●モニュメントの大きさ

高さ：1,655mm

横幅：1,900mm

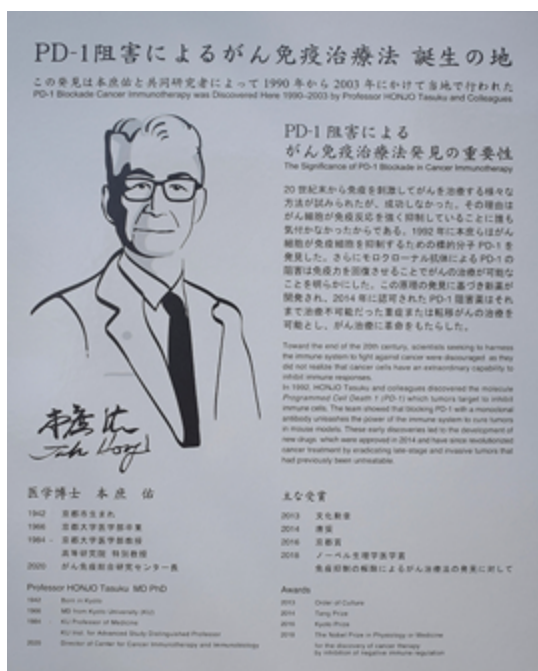
奥行：1,235mm

●モニュメント全体デザイン

建築家 安藤忠雄氏



全体



盤面左



盤面右

【関連リンク】

- ・「本庶佑先生 ノーベル生理学・医学賞 受賞記念モニュメント」を設置しました（2020年9月16日）

<https://www.med.kyoto-u.ac.jp/blog/japan/news/news-prerelease/2020-9-17/>

（大学院医学研究科）

[目次に戻る](#)



総合生存学館ソーシャルイノベーションセンターが発足

総合生存学館では、社会との連携、民間企業等との協力を促進し、また、共同研究を組織的に展開するために、国立大学で初めて「ソーシャルイノベーションセンター」を令和2年9月1日(火)より発足し、10月1日(木)に、百周年時計台記念館において記者会見を行いました。

総合生存学館ソーシャルイノベーションセンターは、持続可能な開発目標(SDGs)などの社会変革目標に貢献する研究を行うこと、併せて俯瞰的・分野横断的な視野と社会実装力を持った人材を育成することを目指しています。今、日本の多くの企業は、従来の業態に捉われない発想で社会に貢献することを模索しており、センターは、このような企業との連携を推進する大学内の窓口としての役割を果たしていきます。

また、このセンターに4つの研究領域、すなわち、水・エネルギー・防災研究領域、ブロックチェーン研究領域、有人宇宙学研究領域、ウェルビーイング研究領域を設置し、それぞれの領域を核にして社会のイノベーションを目指します。

4つの研究領域については次のとおりです。

水・エネルギー・防災研究領域(領域長: 寶 馨)

京都大学ユネスコチェアWENDIと協力して、地球社会の持続可能な発展に重要な生存基盤資源分野、すなわち、水・エネルギー・食料・生態系および防災などに関する教育プログラムと、世界遺産、ジオパーク、エコパークを活用した国際共同研究を実施する。

ブロックチェーン研究領域(領域長: 池田裕一)

非中央集権的でオープンな情報システムを構築するブロックチェーン技術の数理的な研究を行い、学館のカリキュラムの一つであるPBR(プロジェクトベースリサーチ)の一形態として学生との協働でグローバル問題の解決策の社会実装に展開する。

有人宇宙学研究領域(領域長: 山敷庸亮)

月・火星における有人宇宙探査、居住のための宇宙建築、宇宙での資源開発(樹木・木材利用を含む)を行い、宇宙開発におけるノウハウを地球環境改善に役立てる。



記者会見の様子(左から、積山教授、寶総合生存学館長、池田教授、山敷教授)



ウェルビーイング研究領域（領域長：積山 薫）

ウェルビーイング（心の健やかさ・柔軟さ・生きがい）を向上させる要因を，社会的交流に焦点を当てながら様々な人口特性集団について明らかにし，ウェルビーイングを向上させる実践的な取り組みも行う。

（大学院総合生存学館（思修館））

[目次に戻る ↗](#)

寸言

正しいとは限らない

半井 大



数年前にハーバード大学のビジネススクールに通っていたことがある。ビジネススクールでの授業形式はいわゆるケースメソッドというもので、様々な企業経営の事例資料（ケース）を読み込んで、担当教官から与えられたテーマについて参加者たちで議論するものだ。また私は一般の学生として通ったのではなく、大学が特別に準備したカリキュラムに参加するという形で通った。それは世界各国の錚々たる企業から、その経営幹部や幹部候補生が送られてきて、4か月間程度の合宿形式で、朝から晩までタイトなスケジュールで授業に臨むというものだった。確かに参加者はみな著名企業のディレクターだったりシニアなとかだったりの凄そうな肩書で、私はその中でも最年少に近かったので、色々と苦労はしたがそれは置いておくとして。

そこで受けた授業の中で、ひとつ印象に残っているものがある。その授業の題材は、米国の生花店で、生花の製造小売り（SPA）のようなモデルを生み出して急成長している企業のケースだった。担当教官が出したテーマは「1. この企業が急成長している理由は何か」、「2. この企業は10年後も成長しているか」の2つだった。参加者たちはみんな、やれビジネスモデルが優れているとか、やれ在庫管理が秀逸だとかの絶賛モードだった。2つめの質問については、そう思う人は、ということで挙手を求められたが、ほぼ全員（私含む）が挙手した。その質問を終えた後に、担当教官が全員に配布したものは、その企業がそれから10年を待たずに倒産したことを報じる新聞記事だった。

私がこの授業を印象的に感じた理由は、「優秀な人の判断がいつも正しいとは限らない」（企業幹部たちが並以上には優秀であることが前提だが）ということと、「皆の総意がいつも正しいとは限らない」ということを目の前で見せられたからだ。私は企業経営者の感覚としてこの考え方はすごく大事だなと思い、普段は一つひとつの判断に過度に精緻になることにこだわらず、ただ判断には常に誤りを含む可能性があることを前提として、その修正とリカバリの方法をいくつも考えることを心掛けている。

私は高校生の頃、京都大学の「最先端かつ異端」、「優秀だけのおバカ」（オブラートにくるんで「頭でっかちすぎない」くらいにしたほうが良かったか）なところに惹かれて、京都大学進学にチャレンジすることを決めた。この世の中には、お偉いさんの判断や皆の総意で「当たり前」にされてしまって、疑義を差し挟むことがままならない事柄が沢山あるように思う。少子化が進めば本当に国は衰退するのか、雇用もせずに利益を上げる企業が本当に優秀なのか、すべてデジタルにすれば本当に便利で幸せな世の中になるのか。誰も何とも思わないところを突っつくのが異端の役割である。京都大学には、これからもいくつもの「当たり前」を覆せる大学であってほしい。

（なからい だい、ナカライテスク株式会社代表取締役社長、平成11年法学部卒）

[目次に戻る ↗](#)

随想

鈍牛生活 是愉しからずや

名誉教授 加納 健司



伝統ある本欄へ私のようなものが寄稿することに、少なからず躊躇し、題材も見つけ得ぬまま締め切りが迫ってきた。「歳をとるにつれ、文を残すことが怖くなってきた」と言い訳し、苦手なことを後回しにする癖はいまも治らない。

今年3月に退職したが、コロナ禍の影響で退職関係の行事はすべて中止となった。残念でもあったが、肩の荷が降りた気もした。思えば、1973年に本学に入学したときも、学園紛争の影響で入学式はなかった。現在は本学産官学連携本部と他大学で非常勤勤務の生活を送っている。所属学会業務も含め、仕事内容は多義に亘り、量も多い。しかし、何故か心静かな日々を送っているように感ずる；庭や道端に生えた草や木の日々の変化や陽の長さの変化などを、今まで以上に細かく捉えている。現役諸氏には失礼な言い方となるが、学生指導や大学運営の業務から解放されたからであろうか。時計や成果といった軸とは異なる基準での、鈍い動きを心地良く感ずる。まさにハッピーリタイアメントである。

2011年にある友人から、「最近、研究は活発だか数式がなくなったね」と言われ、強烈なショックを受けた。その後は、化学現象をモデル化し、数式化するよう心掛けた。数式にすると、今まで見えなかったものが、いろいろ見えてくることがある；教科書記載の周知と言われている事象でも、その間違いに気づき、そこから新たな展望が開けてくることもある。このようにしてゆったりと考えを巡らせていると、素晴らしい閃きが生まれることがある。言葉では言い表せない感動である。ただ、しばらくすると、その感動も消え、次の闇（疑問・課題）の中に身を置くことになるのだが…。いまは、研究の「十牛図」をゆっくり歩める鈍牛生活が愉しくてしかたがない。

「教員生活38年、悔いなし」という題目で最終講義を予定していた。しかし、現実には悔いだらけである。若い頃は、一元的な薄い考え方で、時には「知識の伝達」を教育と勘違いしていた。歳をとるとそれなりに視野が広がり、考え方の次元が増えてきた。それでも教育とは何か、未だにわからない。教育法も知らない私であるので、致し方ないと思う。ただひとつだけ、この歳になって「教えすぎないこと」の重要性がわかるようになった。仔細を教えるのではなく、考えるきっかけをつくり、即答も求めず、正解がない問いにも向き合う姿勢をみせること、そんな教育にチャレンジしている最中である。

コロナ禍で、慣れないオンライン授業の資料作成もしている。当初、これも面倒と感じていた。しかし、どうせやるなら多面的な見方を織り交ぜ、一見単純なことをも基礎から再考してみるような資料をつくらうと思い立ったら、それが愉しくなった。意外にも学生さんからは、嬉しい反応もあった。「暗記でなく、論理的に理解することが楽しくなった」、「身近に起こる現象に疑問を持ち、その意味を考えようとする姿勢になってきた」、「オンディマンド資料を何度も見るうちに、頭の中で考えがつながってきた」といった具合に…。

4月からの新しい職場では、研究対象が大きく変わり、実験室で過ごす時間も増えた。しかし、基礎的な考え方やこれまでの研究に対するスタンスはぶれずにいたい。鈍牛と言われても、いまの立場だからこそ見えること、そして観ることを大切にして、私の「十牛図」を丁寧に生きていきたい。日々是好日。

(かのう けんじ、令和2年退職、元大学院農学研究科教授、専門は生物電気化学)

[目次に戻る ↗](#)

洛書

仮想現実空間での研究活動

今吉 格



2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中の社会生活に劇的な影響を及ぼし、本学の教育・研究活動への影響も計り知れないものでした。もちろんネガティブな影響も大きく、表面的・潜在的に受けた影響が、今後どのように推移していくのか、どのような対応に注力すべきかについて、全学をあげて調査と対応が進んでいるものと思います。そのような中で、一教員で対応できる範囲なのですが、改めて考えさせられること、逆境をポジティブな方向に変換すべきことについて、我々も考え方を変えていかなければならない大きな契機にもなりました。学生のみなさまや教職員などの研究室構成員も、研究室での実地での業務ができない時期が存在しました。また、ほとんどの授業がオンラインで実施されたため、学生のみなさまも大きく戸惑われたと思いますし、講義担当の我々もこれまで経験のない対応が必要でした。

私事ですが、私は携帯電話を所持しておらず、いわゆるSNS等の文化とは、積極的に距離を置いて来ました。知人とのコミュニケーションや仕事上での連絡に不備をきたしていると思われそうですが、自分の時間を確保する、自分の頭に入ってくる情報量を積極的にコントロールするという意味合いでは、有効に機能しているのではと思います、今後もできるだけ継続したいと思っています。SNS等を通じて、国境さえも越えて多くの人たちと関係を持てる魅力については重々承知しておりますが、それらはあくまでアカウントと紐付けられた一人の人間の思考や経験を発信するツールのひとつだと捉えています。しかし、今回のコロナ禍での生活様式の変化を体験する中で、VR（仮想現実）空間での経済的価値を伴う活動は、SNS等での情報発信やフィードバックとは根本的に異なる次元の将来なのでは、と感じるようになりました。それぞれの人間の分身であるアバターが、VR空間において、身体的特性から解放され、経済的価値を伴う活動が展開される近未来が、研究活動にも類似した形でやってくることを実感せざるを得ませんでした。

少なくとも私が行なっている研究分野では、TwitterやInstagram等のSNSアカウントを持っていなくても研究活動は不自由なく実施できるように思いますが、今後、VR空間でのバーチャル学会や成果発表・研究成果の共有ができない場合は、その研究者は存在しないに等しいという極端な発想も頭をよぎりました。これには、生命科学分野に限ったことではないと思いますが、研究データのビックデータ化が驚異的なスピードで進行し、WEBデータベース上にあるビックデータの二次利用やメタ解析の重要性が高まっている状況もあると思います。また、データ解析手法においても、これまでは研究室単位にユニークな手法やノウハウで実施されていたものが、世界中の研究室で解析コードやノウハウをシェアし、オープン化を前提にプラットフォーム整備することが標準となって来ています。VR空間における経済活動において、仮想通貨の存在が重要な要素であると思いますが、今後は、研究者としても評価や研究成果の位置付けも、現在とは違った形態になるのではという気がしていま

洛書

す。個人的には、そのような近未来の想像に頭を巡らせつつ、今後も、どうやって携帯電話を所持することなく生き延びていけるか、模索中です。

(いまよし いたる, 大学院生命科学研究科教授,
専門は神経発生学, 幹細胞生物学, 神経科学)

[目次に戻る ↗](#)

京大広報
No.753

令和2年11月30日発行

発行 京都大学総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ご意見・ご感想をお寄せください。
「京大広報」の既刊号は, 次のURLでご覧いただけます。
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大125周年、新輝点。



京都大学は2022年に創立125周年を迎えます
URL: <https://125th.kyoto-u.ac.jp>